



人類に奉仕するロータリー

ROTARY SERVING HUMANITY

国際ロータリー会長

ジョン F. ジャーム

Rotary International

週報

「ロータリーを实践し、手をつなごう」

2016～2017 年度 会長 小川 泰正

Vol51 No.27 平成 29 年 1 月 24 日

Vol51 No.28 平成 29 年 1 月 31 日



国際ロータリー第 2750 地区多摩中グループ

東京国分寺ロータリークラブ

第2445回

例会 報告

— 1 月 24 日 —

会 場 : 多摩信用金庫国分寺支店3階

本日の司会

池田 SAA 委員

開会宣言・点鐘

小川 会長

ロータリーソング

『我らの生業』

○ソングリーダー : 山田明弘 会員

お 客 様 紹 介

小川 会長

○村上 菜穂 様 (2016-17年度 ROTEX 会長)

○岩田 敏雄 様 (東京小平RC)

会 長 の 時 間

小川 会長

みなさんこんにちは。今日はローテックスを迎えまして留学体験や留学先のお国柄などお話しいただく企画でございます。留学へのモチベーションもさることながら異文化への対応、外国への期待、発見、出会いが胸の中で広がりがワクワクして出発し、ホームステイ先で孤独な時間、一人で考える時間を体験し、日本と比較し、親元を離れて一人異文化に溶け込む努力をなされてきたのでしょうか。お話を聞くのを楽しみにしている一人でございます。村上さんの笑顔はローテックス仲間の中でひときわ際立っていたのを記憶しております。仲間の中で会長をつとめるようになるのも納得できます。我がクラブも創立以来50年におよび青少年交流には永年深い関心を持ち続けて参りました。ロータリーの大きな特徴の一つでございます。そのロータリーが日本に根付いたと同様に、私達はロータリーの規則も受け入れて参りました。今回の規則改定でも規則の扱い方に違いはあれど、日本のロータリーは規則への従い方に調和を重んじる対応がなされております。山内委員長がいつにない姿勢で規則改定に臨まれています。いずれ皆さんにお諮りするときにまいります。皆さんの英知を集めてより良い形を目指したく存じます。



幹 事 報 告

原 田 幹 事

1/31(火) 通常例会、会員卓話です。
欠席されませんようお願いいたします。

卓話者: 谷田成雄会員、
佐藤和夫会員



1/24(火) 18:00～三鷹「桃事」「ラメーラ」にて

三鷹RC合同例会打ち合わせ。

出席者: 会長、幹事、神尾 SAA 委員長、
中村親睦委員長

1/25(水) 15:00～ハイアットリージェンシー東京

2016-17年度 第2回 クラブ会長・幹事会

出席者: 会長、幹事

1/26(木) 18:00～「北海道国分寺南口駅前店」にて

規定審議・クラブ細則委員会

出席者: 会長、幹事、山内委員長、
今橋副委員長、大平会員

尚、去る1/22(日)、会場監督委員会 委員長 神尾研二会員の御尊父、神尾修様のご逝去されました。訃報をお流しましたので、参列をお願いします。

委 員 会 報 告

出席委員会

小 椋 副 委 員 長

会員数: 45名 免除: 10名

メーキャップ済: 6名 欠席: 5名

出席率: 85. 71 %

《前々回の訂正》 なし



親睦活動委員会

中 村 委 員 長

1月18日から21日まで武蔵国分寺RC6名と共に、プノンペンで教師支援プロジェクトの贈呈式に参加しました。このプロジェクトは7年間前から始まり21クラブが加盟しています。1975年、ポルポト政権でエリート層の4人に1人が虐殺されました。教育が必要で先生を育てています。他、文房具、教科書などを寄贈しています。参加してよかったです。



ニコニコボックス

今橋親睦副委員長

小川会長・原田幹事: ROTEX会長 村上菜穂様ようこそお越し下さいました。素晴らしい卓話を御期待申し上げ、併せて本日も手をつなげる有意義な例会になります様ニコニコ致します。中村会員: 村上会長には浅見美佑が出発前から大変お世話になりました。感謝してニコニコします。



◇2016-17年度 ROTEX会長 村上 菜穂 様

皆様こんにちは。国際ロータリー第2750地区東京八王子北RCにスポンサーいただき、2011-12年度タイのバンコクに派遣していただきました。現在、北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科2年に在籍しております。村上菜穂です。よろしくお願い致します。国分寺RCさんには浅見美佑のスポンサークラブ、ソフィーのスポンサークラブをお引き受けいただきましてありがとうございます。



今日はタイでの生活を皆さまと共有させていただきながら、学んだこと、私自身の変化、それからROTEXの視点から青少年交換プログラムとは？ROTEXとは？についてお話しさせていただきます。

まず、今タイはどんな国でしょうか？皆様の中でタイに行かれたご経験がある方いらっしゃいますでしょうか？

タイは経済的にも急成長を遂げ、観光の面でもタイ人訪日観光客が増加中です。また、医療・介護の視点からみると、タイは家族愛がずば抜けていて今は家族間介護が主流です。今後タイの高齢化率は日本を追うようにして上昇し続けるので、将来的に日本の医療・福祉制度を輸出できるかも、逆に介護を地域・在宅で行いたい日本は今のタイから学ぶことができるかもしれないと期待されています。教育の視点からみると、日本学生支援機構のデータによると、タイは2012年以降いきなり日本人の留学先のトップ10入りしました。また、青山学院大学の地球社会共生学部では全学部生にタイかマレーシアへの1年間の留学を義務付けているそうで、なぜかという急成長を続けるタイでそのエネルギーを体感、サバイバルを経験することで、タフなグローバル人材へと成長できるという理念が根底にあるからだそうです。

さて、それではタイでのサバイバルな生活をイメージしやすくしていただくために私のとある1日をご紹介します。毎朝大渋滞がすごいです。ドライバーつきのホストファミリーもありましたが、第三ホストファミリーになると自分で家から学校までを往復しなければなりません。ミニバスとバスは初めのうちは強敵です。なぜなら、車体に行先が書いてあってそのタイ語をバスが停留所に止まる一瞬で解読し乗り込まなければならなかったからです。タイの公共交通機関にはこれといった規則的なルールがなく、時刻表などもってのほか、運賃もドライバーによって多少変動します。(笑) バスを間違えて見知らぬ場所に着いてしまい帰りが遅くなってしまったなどと失敗はありましたが、スムーズに乗りこなせるようになったときは達成感があり自信になりました。まさにサバイバルですね。

HMに言われた一言で印象的なものがあります。第一ホストマザーは次のホストファミリーに移動になるまで3か月間ずっと毎朝車で送り迎えをしてくれていたのですが、私が渋滞による長時間ドライブのなか寝ると「寝てないで窓の中から何番のバスがどの場所に行くか覚えなさい！ そうしないとあなたはずっと1人で市内に遊びに行くことができないのよ」と私を起こしました。見て覚えろって右も左もわからない外国人にそんな無茶な話です。(笑) しかし、このようにして私にお客様ではなく本当の娘のように接してくれたおかげで、日本に帰ってきてからもHFを引き受けた来日生に対して、ぶつかったり抱き合ったり家族のような関係を築くことができたと思っています。それから、私の母が

来日生のために家にいなきゃいけないと気負ってしまってストレスを感じていたときにも、自分はタイでこんな風にHFと付き合っていたと話をして、気を遣いすぎる必要がないことを説得したこともありました。お客様扱いする必要は全くないんですね。

さあ校舎に到着。タイでは毎日朝夕、国内に国歌が響き渡り、その都度国民は直立不動、国歌を歌います。朝の朝礼でも歌います。ホームルームがあり、授業はホームルームクラス単位で行うもの、選択科目がありました。選択科目の中に高校生なのに心理学のクラスや、タイの伝統ダンス、中国語やフランス語、日本語のクラスがあったりと柔軟性の非常に高いカリキュラムでした。その中でも特に私が積極的に参加したクラスが、別棟にあるインターナショナルスクールで開講されていた英語で経済学を学ぶというものです。このおかげで帰国後、TOEICの点数が飛躍的に伸びました。それから、タイ語のレッスンにはマンツーマンで先生がついてくださり丁寧に指導してくれました。特徴的だったのは、タイは日本のような暗記詰め込みの勉強スタイルではなく、例えば経済学だったら「お金」が紙でつくられることの功罪は何か？なぜ外国と比較して自国の通貨は安定するべきか？など、questionに対する回答を事前に考えて、それを授業に持ち込んで他の学生とシェアし、先生の前で発表するという授業方法だったことです。これが日本と異なりかなり面白かったのを覚えています。

放課後はタイ人と話したり、タイの新宿みたいな場所で来タイ生と落ち合ってご飯を食べたり遊びに行ったりしました。バンコク派遣の良いところは、覚えれば自分の足で行動できるので来タイ生(総勢32名)と会いやすく、トリップ友達という一時的な間柄ではなく1年という時間を共にでき、一生の仲間になれることです。その証拠に結婚式にも招待してくれるほどで、この春なんと一人目が結婚式をあげました。

この写真はタイでいう春休み期間に、日本のスポンサークラブとタイのホストクラブのつなぎ役をさせてもらって、2クラブ合同奉仕プロジェクトといいますか、洪水の被害にあった児童養護施設に対する学用品寄贈プロジェクトに携わらせていただいたときのものです。私が派遣された年の1年前に3.11東日本大震災があり、私の派遣中にはタイで日系企業が浸水に見舞われた大洪水がありました。それなので、当時の私は「自分に何ができるのか・・・」と考えました。日本震災後、スラム街でも日本への募金を集めてくれたという話を聞いていたので、洪水で流れてしまったという学用品をお渡しすることにしました。でも何かしてあげたいという気持ちで始めたものの、学ばせていただいたことの方が多かったです。

タイのロータリーの方と安価で上質なリュックサックを探しに市場に出向いた経験は今でも忘れられません。もので溢れた日本での生活に慣れ親しんだ私にとって、なるべく長く使えるものをプレゼントするというシンプルなことが新鮮に感じられました。その児童養護施設では、食料に関しては自給自足の生活をしていたり、子どもたちが全うな仕事について社会に出て行ったりするという話をきいて、彼らの生命力に圧倒されたのを覚えています。この経験が、貧困に対する私の捉え方を変え、なるべく多くの人が「どんな生活水準におかれていても本人にとって意味や価値のある人生」を築いていけるように何か手を貸せる大人になりたいという私の生き方の指針を立ててくれました。

このようにして価値観が覆されることが多々あったのですが、そんな中で私がどのように変わったかをお話します。まずこちらの

動画をご覧ください。戦後即位してからというものの70年間、タイ王国の繁栄をもたらしてきたプミポン国王の死は、タイ国民にとって実の親を亡くしたも同然の出来事でした。そのときの映像を人々の様子に着目しながらご覧ください。(ビデオ30秒)

いかがでしょうか？何かここが日本人の悲しみ方と違うな、などございますか。日本ではどんな悲しいことがあっても公の場で大人がこうも声をあげて泣くことはなかなかしないと思います。

そんなタイで・・・自分の気持ちを言葉や態度にして表現するようになりました。派遣前は自分の気持ちを表に出すことは子どもっぽいとか恥ずかしいことだと認識していたため、家族以外の前でそうすることはあまりありませんでした。つまり外では自分から壁を作っていたんですね。私はそれを自然にしていたんですが、それがあだとなり第一HFには「NAHOは何を考えているのかを言わないし表現しないからわからない！かわいくない！」と叱られる羽目に。タイでは、日本よりも自分の感情に従順だと思えます。学業の成績が良くて嬉しければ成績表の写真をとってSNSにアップします。(それでも出る杭は打たれたりしないのがタイのいいところ！)タイのドラマの中ではよく人と人が大声をあげて泣いて怒って殴り合うシーンがみられます。しかも、タイ女優の演技力を見定めるポイントは、悲劇のヒロインとしていかに上手くダイナミックに泣けるかだそうです。なので、毎回といっていいほどタイのドラマの中では綺麗な女性が大声で泣いています。

また自分と相手との間に生じる違いを受け止められるようになりました。タイにはスラム街が点在しており、派遣生活中そういった場所に積極的に訪れるようにした時期がありました。それまで私は、経済格差は悪だと考えていましたが、実際にスラム街で生活する人たちを目の当たりにすると、この人たちはこの人たちの生活があって、家族がいて、所得は少ないけど仕事があって、意外にも家にテレビがあって、なんだかみんな同じ生活スタイルじゃなくていいんだ、幸せのあり方って1つじゃないなあと感じたのは財産です。それから、LGBTIに対して寛容なタイで有名ですが、驚くべきことにレディーボーイたちは高校男児に課される兵役を免れることができ、タイの寛容さを目の当たりにしました。そして目的や目標をもって生きていこうと思うようになりました。タイ人の同年代の友達によく「将来、お金を稼いで親孝行するために、国の繁栄のために一生懸命勉強しているよ！」と言います。このような未来に対する考え方は先進国の子どもにはなかなか新鮮だと思います。まさに多感な時期にタイのエネルギーを存分に吸収して成長できたことは、今もこれからも生きていきます。最後にこれら全てを経験し、私は人って面白い、と人に興味を持つようになり、今では患者さんの自分らしい生活づくりに寄り添う、それも自国に留まらず世界で活躍するセラピ

ストを志すようになったほどです。このように日本の高校生活ではなかなか得られない貴重な経験をたくさんさせていただいたのですが、次はじゃあそもそも青少年交換プログラムってなんなのというところをお話します。

青少年交換プログラムでの留学のポイントは、

- ①国際ロータリーの保護下での留学ができること
- ②世界から集う留学生との交流があること
- ③たった1人で母国を離れ異国へ旅立ること

この3つがあります。実際に私も大洪水の被害にあったときも、ロータリーのネットワークのおかげでバンコクを離れ避難先のナコンサワンという場所で臨時のホストファミリー、学校を設けていただきました。これは、国内のRC会員の団結力&RCと地域の人々の団結力があってのものです。

ROTEX活動とは、ロータリアンさんで構成されている青少年交換委員会、これから派遣される日本の高校生、海外に派遣中の日本の高校生、来日生ときにそのHFと関係を築きながら、

- ①自らの経験をいかして派遣候補生、派遣生の派遣生活がより充実したものになるように

②来日生が日本を好きになって自国へ帰ってくれるようにという2つの目標を掲げ、研修・泊まり込みのキャンプを企画したり、運営したり、話し合いに参加したりするものです。派遣候補生・来日生を対象にした研修はだいたい月に1回あって、その企画をするためにROTEXの幹部はロータリアンさんとの話し合いである委員会にも意見を述べたり、ROTEXからみた派遣候補生・来日生の状況を連絡したりします。活動してもしなくても派遣先から帰ってきた私みたいな学生はみんなROTEXとして扱われます。(ちなみに、後輩のために活動する現役ROTEXは主に大学生ですが、大学を卒業して社会人になった方も先輩ROTEXです。)自分の派遣生活が自分だけのものに留まらず後輩育成に還元でき、さらにROTEX活動のなかで様々なキャラクターのロータリアンさんがいて、様々なかたちのリーダーシップを間近でみる体験ができているので、自らのリーダーシップについて考え実践する場を与えていただいております。

最後にまとめになりますが、今日はタイ派遣経験をみなさんと共有させていただいてから、ROTEXの視点から青少年交換プログラムをご紹介させていただきました。来日生が日本で安心して安全に生活できているのも、私たちが海外で素晴らしい経験をさせていただけたのも、皆さまのご協力とご尽力があってのものです。本当にありがとうございます。ソフィーを含め9人の来日生が全員、元気で楽しく日本での残りの時間を過ごせるようにROTEX共々全力でバックアップしていきますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

第2446回

例 会 報 告

— 1 月 31 日 —

会 場 : 多摩信用金庫国分寺支店3階

本日の司会

濱 仲 S A A 委 員

開会宣言・点鐘

小 川 会 長

ロータリーソング

『それでこそロータリー』

○ソングリーダー : 酒井会員

会長の時間

小 川 会 長

こんにちは。今日はロータリアンについて思うところをお話しさせていただきます。日本人で最初のRI会長は、ご存知の通り東ヶ崎氏です。立派なロータリアンであることが第一の理由で選任されたのでございますが、彼の方針は「進んで参加せよ」という極めて抽象的な一語であったと



いいです。船にたとえてみると船にはたくさんの人が乗っているが、船員として運航業務を担当して働いている人々と、乗客としてただ行を共にしている人といっています。運航業務を担当している人は自分の部署をしっかりと守って、その責任を全うしてゆくことである。責任を全うするにはその業務を熟知していなければなりません。仮に知識無くして配属されても職務を遂行出来ぬばかりか、邪魔になることさえあります。ロータリーにおいてもロータリーの何ものかを解せずに会員としての本分を発揮することはできません。委員会の仕事内容を理解せずクラブ活動に進んで参加できないと存じます。今日の卓話も経験豊富なロータリアンであなたや私の知らない業界、職業の方です。ロータリーの奉仕について知る良い機会だと思います。ロータリーの1年交替は会員に奉仕の勉強をしてもらうため、どのような奉仕ができるか考えてもらうためでもあります。RCはロータリアンに奉仕させるクラブで、クラブが団体で奉仕するのはむしろ本筋では無いと言います。ロータリーに見物席はありません。みなさん一緒に参加しましょう。

委員会報告

幹事報告

原田幹事

2/7(火) 11:00～理事会、例会は環境保全委員会が担当します。

2月のロータリーレート: 116円

後期年会費納入期限が本日1/31迄です。



1/24(火) 18:00～三鷹「桃亭」「ラメーラ」にて三鷹RC合同例会打ち合わせ。
会長、幹事、神尾SAA委員長、中村親睦委員長出席。

1/25(水) 15:00～「ハイアットリージェンシー東京」にて2016-17年度 第2回 クラブ会長・幹事会。
会長、幹事出席。

1/26(木) 18:00～「北海道国分寺南口駅前店」にて規定審議・クラブ細則委員会。
会長、幹事、山内委員長、今橋副委員長、大平会員出席。

1/27(金) 「龍栄」にて 国分寺消防協働団体合同賀詞交換会。会長出席。

1/30(月) 立川グランドホテルにて 第4回IM実行委員会。
照木会員出席。

出席委員会

林委員長

会員数: 45名 免除: 9名
メーキャップ済: 2名 欠席: 4名
出席率: 88.89 %
《前々回の訂正》 なし



IM実行委員会

照木委員

1月30日に第4回IM実行委員会が開催されました。資料を配布し、趣旨、進行など詳細報告を行いました。各クラブは6割以上の出席登録が必要です。懇親会で各クラブ会長が新入会者を紹介します。



ニコニコボックス

山田久美子親睦委員

浅見真理様:浅見美佑は今ブラジル国内を旅行しています。感謝してニコニコします。小川会長・原田幹事:大寒は過ぎましたが寒中の厳しい気候の中、本日も多くの会員の皆様にお逢い出来ます幸せに感謝申し上げます。又、今日は谷田会員佐藤会員の「もう一度イニシエーション」です。クラブが更に楽しくなることを祈念しニコニコさせて頂きます。神尾会員:先日は、父の葬儀にご参列、ご尽力を賜りましてありがとうございます。たくさんの方々に見送っていただき、父も喜んでいていると思います。感謝を込めてニコニコします。



もう一度 イニシエーションスピーチ

◇佐藤会員

クラブでは近藤先生と共に最高齢で在籍も古いです。戦争、激動の中で青年時代を過ごしました。生まれは東京府北多摩郡千歳村、今の住まいは世田谷区上祖師谷、京王線千歳烏山です。家は農業を営み次男坊だったため旧制中学、大学へ行きました。当時の教育制度は6・5・3・3制。新制大学の第1回目の昭和28年卒業。旧制中学では戦時色が強く厳しい軍事訓練がありました。学徒動員の時は海軍の技術研究所に配属され、恵まれた生活で終戦を迎えました。昭和20年の終戦ですが、実際の終戦は5～6年後の講和条約が締結された時に日本は独立したと思います。今でもB29を思い出します。戦時中の挙国一致思想は恐ろしい教育でした。多くの人が亡くなり苦しみました。戦争による犠牲者310万人のお陰で、今の日本の成長・繁栄があります。学生の時の思い出は戦争の記憶しかありません。



◇谷田会員

RCに入り勉強になりました。感謝しています。若い人は身近の古い人の生きざまを見て自分で考えることが大切です。実家は栃木の農家。父と叔父が蒲田で東京ガイシを創業。私は昭和7年に蒲田で生まれ、小6まで住みました。戦争で家族は疎開しましたが、父と私は昭和19年に買収した国分寺・恋ヶ窪の工場に住みました。私は自炊していましたが、今でも自分で洗濯しています。昭和24年の1年間、結核のため栃木で療養生活を余儀なくされましたが、誤診でした。戦後、田舎の山を売り、国分寺南口の土地を購入しました。早稲田を卒業し東京ガイシに入社。長年、商工会、消防、警察など多方面にわたり地域貢献を継続してきました。



閉会の点鐘

小川会長

国際ロータリー 第2750地区 多摩中グループ

東京国分寺ロータリークラブ

会長 小川 泰正 幹事 原田 雅章
会報委員長 照木 信久 副委員長 尾作 義明
事務所・例会場 東京都国分寺市南町 3-20-3 国分寺ターミナルビル 8階
Tel.042-322-6480
編集・印刷 (株)スプリングフィールド 国分寺市本町 3-8-12 Tel.042-320-5601
URL: <http://www.tokyokokubunjirc.org/>